

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です！

糸島の農業を元気に

若手ファーマーズの

古重動

NO.86



糸島市王丸

たにぐち だいち

谷口 汰一さん (24)



汎用型のコンバインです。主に大豆の収穫に使われます。米・麦の収穫用に自脱型のコンバインも保有されています。

97馬力のトラクターです。補助事業を利用して新品で購入されました。この他にも、大小合わせて6台のトラクターやブームスプレーヤー、6条植えの田植え機、リフトなども保有されています。

今回は糸島市王丸で米、麦、大豆を主に生産されている谷口汰一さんをご紹介します。高校卒業後すぐに就農され今年で7年目を迎えられました。

◆農業経営の内容を教えてください

米(主食用米、飼料用米)約12畝、麦(大麦、小麦)約18畝、大豆3.5畝を私と父で管理しています。昨年から父も農業を始めたので、父に農機を使った作業を任せ、私は水管理や肥培管理を行っています。

就農して6年目くらいから、圃場の変化が分かるようになり、そのころから収穫量が増えました。

今、力を入れているのはタケノコ栽培です。祖父が林業もやっていたので、きれいに整備された山があります。その山を収益向上の武器に出来ないかと、3年目からタケノコ栽培を始めました。

白くて柔らかいタケノコを採るため“地面から頭が出る前に掘る”というルールを決めています。

今年から、日持ちや見た目が良くなるように真空パックにし、パッケージも自分で考え、商品化しています。

◆就農のきっかけは？

きっかけは、高校3年生の時に、初めて手伝った草刈りです。

農業は当時78歳の祖父が1人でしており、草刈りがとても辛そうに見えました。野球部だった私は体力に自信があり、草刈りを手伝ったのですが、それがものすごくキツかった。

「これは祖父1人に、農業をやらせてはおけない」と両親の反対を押し切って就農しました。

農業の基本は祖父に付いて学びましたが、21歳の時に、いよいよ“自分がやる”と一念発起して農機を揃え、面積を拡大しました。

◆心掛けていることは？

一番大切にしているのは環境作りです。作業し易い環境、作物が育ちやすい環境に整えることを常に考えています。そうすると、景観も自ずと整うと考えています。

また、機械いじりが好きなので、中古農機を安く手に入れて自分で整備し、長く大事に使う事をモットーにしています。

機械は常に手入れし、ピカピカにしておきたい。汚れたままだと使い方も作業も雑になるような気がします。

◆将来の抱負は？

王丸は山がちなので、平野部の農家には作付面積では勝てません。

そこで、山を活用する事で収益を上げたい。そのためにタケノコ栽培を始めました。

今後はシイタケ栽培、野菜の生産も考えています。様々な作物を組み合わせることで経営の幅を広げ、販売力のある農家を目指しています。直接お客様と向き合う事が、モチベーションの向上になると思います。

販売をJAに任せっきりでなく、自分で売れる分は、自分でお客様を見つけて販売したい。そのための独自ブランド化も目標にしています。